

令和7年度 中学生の「税についての作文」

沖縄県納税貯蓄組合連合会会長賞 考えてみた税の大切さ

南星中学校 南風原 ゆめ乃

「また消費税高くなったね」と、ニュースを見ながら父がつぶやきました。でも、私は大人が払うお金というイメージが強かったので、税金は自分には関係ないと考えていました。けれども、後になって、「本当に税は自分に関係ないのだろうか」と疑問に思い、調べてみることにしました。

調べてみると、税は私達の生活のすぐ近くで大きな役割を果たしていることが分かりました。道路や橋などの公共の設備、病院や消防と言った安心して暮らすための制度、そして、私が通っている学校の教科書も税金で支えられていました。普段は当たり前のように思っていたことが実は税のおかげで成り立っている」と知り、とても驚きました。

しかし、世界には税金をほとんど払わずに暮らせる国があることも分かりました。例えば、アラブ首長国連邦では、かつて石油の収入が国の財源となっていて、国民は税金をほとんど納める必要がありませんでした。

でも考えてみると、石油のような資源はいつか必ず減っていきますし、観光に頼る国は不景気や災害で収入が減ってしまうかもしれません。そのときに、税金がなければ安定して国を支えることはできないのではないかと思います。

一方で日本は、多くの人が少しずつ税金を納めて、それを国全体の仕組みの中で使って

います。そのおかげで、誰か一人に大きな負担がかかるのではなく国全体で支え合うことができます。私はこの仕組みを知って、とても安心感を覚えました。もし大きな災害や病気になっても、税によって支えられた制度があるからこそ、多くの人が助けを受けることができます。さらに税は今の生活を守るだけでなく、将来の社会を形づくるためにも使われます。研究や新しい技術の開発、子どもたちが安心して学べる環境づくりなど、未来に向けた投資としての役割も果たしています。

こうして考えると、私達が納める税はただ消えてしまうお金ではなく、社会を安定させるための大切なルールだと思うようになりました。税がなければ一部の人が豊かになる可能性がありますが、税があるからこそ国全体が支え合い、安心して生活できるのだと思います。

私は将来、働くようになったら、自分も税を納める立場になるのだと思うと、大きな責任をかんじますが、同時に、税金を納めることで社会の役に立てるのだと考えると、少し誇らしい気持ちになります。それは、ただ自分のためではなく、誰かの生活や未来を支えているという実感につながるからです。そして、これからもみんなで支え合いながら、安心して暮らせる社会を守っていききたいです。